

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和4年度 雄山高等学校アクションプラン				－ 1 －	
重点項目		(1 学習活動) 学習活動			
重点課題		教科指導方法の改善と基礎学力の定着・充実			
現 状		・与えられた課題に真面目に取り組んでいる生徒がいる一方で、自身の進路に対する具体的な目標を明確に持てないため、学習意欲が低く、家庭学習時間が十分に確保できていない生徒もいる。また、予習・復習にかける時間に個人差があり、基礎学力が十分に定着していない生徒が多い。 ・教員間での互見授業や生徒に対して授業アンケートを行い、校内の教員や生徒からの評価をもとに、各先生方で授業改善に取り組んでいる。			
達成目標		①生徒の授業に対する満足度 5段階評価で4以上とした生徒の割合		②授業以外の学習時間 平均60分以上の生徒の割合	
		60%以上		60%以上	
方 策		・授業では、生徒の主体的な学びを促すために、ペアやグループでの協働的な学びの場面や自らの考えを広げて深める対話的な学びの場面を設定する。 ・ワークシート等を用いて、生徒の理解度を把握し、授業改善につなげる。授業で使用しているワークシートを教員間で共有する。 ・ICTを活用し、理解度の向上、学習の定着につなげる。		・学習・生活実態調査(1学期)と学習時間調査(毎学期)を実施し、生徒の学習及び生活状況の実態を把握する。 ・基礎学力定着に向けて週末(週間)課題等を工夫して与え、生徒の学習意欲を喚起する。 ・個別面接を実施し、予習復習の大切さを認識させ、毎日の家庭学習習慣を身に付けるための助言・指導を行う。 ・具体的な進路目標をもたせられるよう学年や進路指導部と連携をし、自分に合った定期考査対策に計画的に学習に取り組ませる。	
達成度		質問1：説明がわかりやすかったか 1年：79% 2年：76% 3年：80% 全体：78.3% 質問2：興味・関心をもつことができたか 1年：71% 2年：67% 3年：73% 全体：70.3% 質問3：ポイントを明確につかむことができたか 1年：70% 2年：69% 3年：74% 全体：71.0% 質問4：進度は適切であったか 1年：75% 2年：70% 3年：60% 全体：68.3% 質問5：課題の量が適切であったか 1年：72% 2年：70% 3年：63% 全体：68.3% 質問6：考えを深め、意見を発表できたか 1年：51% 2年：49% 3年：50% 全体：50.0% 全体 67.7%		・1・2・3学期に学習時間調査を実施した。 平均60分以上授業以外の学習をした生徒の割合は、 〔1学期〕：4月21日(木)～4月27日(水) 1年 普通科 60.0%、 生文科 76.7% 2年 普通科 35.9%、 生文科 35.7% 3年 普通科 62.0%、 生文科 54.1% 全体 54.0% 〔2学期〕：11月21日(月)～11月27日(日) 1年 普通科 82.4%、 生文科 70.0% 2年 普通科 70.1%、 生文科 85.7% 3年 普通科 91.2%、 生文科 100% 全体 83.2% 〔3学期〕：1月16日(月)～22日(日) 1年 普通科 36.6%、 生文科 12.0% 2年 普通科 45.7%、 生文科 27.3% 全体 30.4% 全体 55.9%	
具体的な取組状況		・授業の中で、話し合い・教え合いの場を必要に応じて設け、生徒の理解を進めたり、協働しながら課題を完成させたりした。 ・授業の振り返りを記入させ、生徒の理解度、現状の把握をしながら、授業改善に繋げた。 ・ICT推進事業の一環で、学習者用デジタル教材を利用して、個々の生徒のペースに合わせて、演習問題を進められるようにした。		・個別面接を実施し、進路希望や学習の取り組みについて確認し、生徒へ進路意識を持たせた。 ・課題に対しては、課題の取り組み方についても評価することを生徒にも共有した。 ・成績不良者に対して、考査前・考査後、夏季・冬季休業中に補習や個別指導を実施した。 ・進路を明確に考えられるよう、進路ガイダンスを小論文ガイダンスの機会を設け、生徒に自分の適性や強みについて考えさせた。	
評価		A	・全体としては達成した。項目別に見ると質問1～5については達成できたが、質問6については達成できなかった。	C	2学期のみ達成した。どの学期も昨年と比較すると、割合が下回っている。学習習慣が身についている生徒の割合が少ない現状がみえた。
学校評議員の見意		・今後ICT 機器の操作に慣れた生徒たちに対して指導者側のスキルアップがますます求められる。指導法・活用技術の向上を進めてほしい。情報リテラシーの向上についても生徒に訴えてほしい。 ・早期に生徒のつまずきに気づき指導することで学習意欲や学力向上につながると考えられるので、引き続き丁寧な指導をお願いしたい。 ・質問6(考えを深め、意見を発表できたか)についてももう少し掘り下げて分析し、生徒が意見を発表しやすい授業環境への改善に努めていただきたい。 ・授業以外の学習時間に関しては、親の努力も必要だと感じた。			
次年度へ向けての課題		・今後もタブレットを効果的に活用して、生徒の理解度の向上につなげたい。また、授業の中で生徒が自分でできたという経験を積ませることで、自ら学ぼうとする意欲を向上させ、課題の取り組み方につなげていく。 ・新学習指導要領が年次進捗で進み、多様な評価で生徒の学習状況を把握しながら、生徒がその学習を通して成長したという実感をもてるような授業実践に今後も教員全体で取り組んでいく。		・引き続き、学年や進路指導部と連携しながら、生徒が進路目標を定め、各自の進路実現までの見通しがもてるようにガイダンスの機会を多く設けていきたい。 ・学習習慣の維持、課題の取り組み方について、継続して取り組むとともに、生徒の実態に応じて、学力を伸ばせるよう学年・教科担当と連携していくことが重要である。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

令和4年度 雄山高等学校アクションプラン			－ 2 －	
重 点 項 目	(2 学校生活) 規範意識の向上と保健指導			
重 点 課 題	遅刻数の減少		睡眠習慣の改善	
現 状	・生徒一人あたりの年間平均遅刻数は下記のように推移している。 H23年度…1.30回 H29年度…0.94回 H24年度…1.34回 H30年度…1.06回 H25年度…1.32回 R 1 年度…0.92回 H26年度…0.95回 R 2 年度…0.43回 H27年度…1.11回 (R2は4,5月休校) H28年度…1.13回 R 3 年度…0.85回		・睡眠不足や生活習慣の乱れから、心身の不調を訴える生徒がいる。 ・友人とのコミュニケーションやオンラインゲームなど、スマートフォンの長時間使用が睡眠に悪影響を与えている。 ・授業に集中できないのは、よく眠れなかったり、朝すっきり起きられなかったりすることに起因していると考えられる。	
達 成 目 標	①生徒一人あたりの年間平均遅刻数		②質の良い睡眠を得られていると感じられる生徒の割合	
	1.0回未満		6割以上	
方 策	・8:40着席を徹底させる。 ・遅刻回数が目立つ生徒に対して面接指導を行い、改善を促す。		・「睡眠調査」を年2回実施し、生活を振りかえり、改善を促す機会とする。 ・「保健だより」や生徒保健委員会で、質の良い睡眠について啓発する。 ・「11－7運動」と連携して、睡眠のために生活習慣を変えようという意識を高める。	
達 成 度	・1学期 157回 (前年度126回) ・2学期 173回 (前年度182回) ・3学期 13回 (～1/16) 1月16日(月)時点で、平均遅刻数は0.78回。 ※複数回遅刻者 計56名 (1年15名、2年26名、3年15名)		「夜ぐっすり眠れる」生徒の割合 9月下旬81% 1月下旬84% 「授業中によく眠くなる」生徒の割合 9月下旬42% 1月下旬41% 「平日の睡眠5時間未満」生徒の割合 9月下旬10% 1月下旬9% 「朝すっきり目覚める」生徒の割合 9月下旬41% 1月下旬35%	
具 体 的 な 取 組 状 況	・担任に対して、8:40着席指導の協力を求めた。 ・生徒玄関前に立ち、登校の様子等を巡視するようにし、特に時間ぎりぎりに登校してくる生徒に対しては、声かけ指導等するようにした。 ・遅刻2回の生徒に対して面談を行い、原因を振り返らせるとともに、改善策を立て実行を促した。		〔生徒保健委員会の活動〕 ・「ぐっすり眠れるためにどうしたらよいか」について調べ、文化発表会で掲示発表した。 ・学校保健委員会で調べたことを発表し、保健室前廊下の掲示、保健だよりや雄山タイムズで紹介し、「より良い睡眠のための行動」について考えるきっかけとした。 〔保健だよりによる啓発〕 ・睡眠に関する情報を知らせ、自分の生活を振り返らせて行動変容を促した。	
評 価	B	・2学期終了時点では、目標が達成されている。	B	・「ぐっすり眠れる」と感じている生徒は、全体の8割を超えている。
学 校 評 議 員 の 意 見	・中学校と連携を図り、生徒の現状と課題を共有し学習面や生活面でサポートする体制づくりに取り組むことも必要だと考える。 ・小・中・高と保護者や地域が一体となって組織的に啓蒙活動に取り組むなど一体性と連続性のある展開が実現できたらよい。立山町との包括連携活動の一端として位置付けられないか？ ・睡眠習慣の調査結果からは SNS やゲームの悩みのほか心の悩みを抱えている生徒も多いので、今後一層細やかな寄り添った対応を願いたい。 ・「睡眠習慣の改善」は、これをアクションプランに加えていること自体がよい。			
次 年 度 へ 向 け て の 課 題	・遅刻の理由として多かったものは、寝坊や登校準備が遅くなり、公共交通機関に乗り遅れたなど、自己管理不足が原因であるものがほとんどであった。このことから各家庭との連携をより密にし、基本的な生活習慣の見直しや改善に努めさせるとともに、生徒個々に応じた指導を進め、時間を守る意識と先を見越した行動ができるよう指導していきたい。		〔2回実施した「睡眠調査」より〕 ・ぐっすり眠れない原因に、SNSや動画サイトの他に「悩み」を上げる生徒も多い。 ・約6割の生徒が朝の目覚めがスッキリしないと感じている。 ・「頭痛がある」「集中力がない」「不安がある」という自覚症状を持つ生徒が多い。中でも「不安がある」という生徒の約8割が毎朝スッキリ起きられないと感じており、悩みや不安が質のよい睡眠を妨げる一因となっているのではと感じた。 ・生徒の悩みや不安な気持ちに寄り添い、心身ともに健康で前向きな気持ちで学校生活を送れるように環境を整えていきたい。 ・「11-7運動」を周知徹底し、継続的にスマホの使い方や生活習慣の改善を促す必要がある。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

令和4年度 雄山高等学校アクションプラン			－ 3 －		
重 点 項 目	(3 進路支援) 進路実現を図るための基礎力の充実				
重 点 課 題	進路意識の向上と進路支援の充実				
現 状	・社会とのかかわりの中で自己を見つめ、自らの進路を具体的に考えようという意識に乏しい生徒が多い。 ・進路実現に向け困難に挑戦する姿勢に乏しい。				
達 成 目 標	① 1、2 学年生徒へのアンケートで、自己の進路選択に活用するため、進路学習に積極的に取り組むことができたとする生徒の割合		② 3 学年生徒へのアンケートで、進学補習・面接練習・個別指導などの進路支援に対して肯定的にとらえていた生徒の割合		
	90%以上		90%以上		
方 策	・適性検査及び進路ガイダンス、校外進路学習、職業人講話、立山町企業見学、インターンシップなどの学習により、自己を見つめ、自己理解・社会理解を深めるようにする。 ・担任面接の機会を重視し、生徒の進路意識を向上させ、進路選択への意識を高めるようにする。		・オープンキャンパス、オンライン説明会、職場見学に意欲的に参加できるように適切な情報を随時提供する。 ・補習や全教員による個別指導などをおとして基礎学力を定着させ、目標達成に向けて更なる進展を図る。 ・面談を重ねることにより、生徒の志望を確かなものとし、最後まで妥協しないよう指導に努める。また、保護者懇談会の機会を利用して、家庭との連携の緊密化を図り、協力を求める。		
達 成 度	・ 94.6 %		・ 97.2 %		
具 体 的 な 取 組 状 況	・進路ガイダンス、小論文ガイダンスなどの行事・学習を通して進路意識を高め、社会理解を深めるように指導した。1 学年は立山町企業見学、2 学年は県の事業「企業魅力体験」を実施した。本校独自のインターンシップは新型コロナウイルス対応のため実施しなかった。 ・担任との面接は随時行い、進路意識の向上につなげている。		・県内のオープンキャンパスや就職応募前職場見学に意欲的に参加していた。県外は新型コロナウイルス対応のため、オンライン説明会への参加を促した。 ・計画的な補習と個別指導をおとして学力の定着、向上を図り、生徒一人ひとりの目標達成を目指した。 ・担任や面接担当とは面談を重ね、本人や家庭の意思の把握に努め、納得のいく進路選択につなげた。		
評 価	B	・積極的に取り組む生徒の割合は達成しているが、全く積極的に取り組めなかった生徒もいる。インターンシップなど体験学習は、本校独自の計画ができなかった。	A	・面接練習や教科の個別指導などが丁寧で良かったという意見が多かった。 ・進学補習を受けたことで学力が付き、自信をもてるようになったという意見が多かった。	
学 校 評 議 員 の 見 意	・3 年生の受験や就職に向けてのサポート体制がしっかりし、先生方の丁寧な指導に後押しされ生徒が自信につなげていることは大きく評価できる。個別指導は全学年での生徒においても重要なので生徒に応じたサポートを継続してほしい。 ・各々が悔いのない進路選択を出来るよう、意識・意欲をどう高めるか、どのタイミングで働きかけていくかなどできるだけ個に寄り添った支援が大切である。 ・入学してくる時点で将来的な目標を持っていない生徒が多いのではないか。目標を持つヒントとして企業見学などで進路意識を向上させ生徒との面接も数多く実施し最終的には自主的に自分の進路を決めていくように指導していただきたい。				
次 年 度 へ 向 け て の 課 題	・1、2 年生とも探究の時間を有効に使い、将来の進路、職業を意識するような学習や行事を一層充実させ、計画的に積み重ねる指導体制をつつていく。 ・生徒が自己理解と社会理解を深め、意欲的、主体的に進路を考えるとともに、今すべきこと、今できることに自ら取り組み、深めていく機会を設けるよう努める。		・補習を計画的に行うことで基礎学力の定着を図る。進路先が多岐にわたるため、応用力を必要とする生徒にはさらなる個別指導の充実が必要である。国公立大学への進学希望者に対しては最後まで力を伸ばす個別指導を十分に行う。 ・面談を繰り返し行う中で本人の進路意識を明確にし、受け身ではなく、自ら十分に準備をして受験に臨めるよう対応する。		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

令和４年度 雄山高等学校アクションプラン			－ ４ －
重 点 項 目	(４ 特別活動) 特別活動および図書指導の充実		
重 点 課 題	ボランティア活動の充実および読書習慣の確立		
現 状	・昨年度も立山町主催の行事や、夏・秋のさわやか運動等は実施困難であったが、生徒会から少人数での各種ボランティア活動と呼びかけたところ、目標には届かなかったがまずまずの参加人数があった。また校内のボランティアに限らず地域社会でのボランティアも推奨したところ、ボランティア経験率は51%であった。しかし、何度も参加する生徒がいる一方、自ら進んで参加する生徒ばかりではなく、1年間に一度も参加しない生徒もいる。 ・読書好きの生徒がいる一方で、全体として図書に対する興味・関心は依然として低い。そのため、HRや授業での図書室の利用を除くと、自発的に図書室を利用するのは一部の生徒だけである。昼休みや放課後など、図書委員を中心に来館者は微増しているが、生徒全体には、広がっていない。		
達 成 目 標	①ボランティアに一度でも参加した生徒の割合		②年間の一当たりの図書室利用者数
	70%以上		20人以上
方 策	・校舎内の活動にとどまらず、日常生活全般において生徒自らが出来るボランティア活動を目指す。 ・ボランティア活動に参加することによって生まれる多くの効果を学習させる。 ・地域に貢献できる活動を目標とするが、身近な活動を重視する。 ・ボランティア活動体験率を確認するために、アンケート調査を実施する。 ・図書室の利用者総数とクラス別の図書貸出総数を図書室前に掲示する。 ・授業やHRでの図書室活用を促進し、読書へのきっかけを拡大していく。また資料となる書籍の充実に努める。 ・図書委員会を広報係・整備係・教養係の3つに分け、活動の活性化を図り、図書室利用を促進する。 ・図書委員のアイデアを積極的に生かし、図書選定や特集コーナーを設け、読書の魅力をアピールする。 ・小論文対策の書籍・資料コーナーをさらに充実させ、生徒が活用しやすいよう工夫する。		
達 成 度	・校内外のボランティア活動に一度でも参加した生徒の割合は61.5%であった。(昨年度より10.5%上がった) ・12月末現在での来館者数は2,102人で、一日平均14.1人であった。		
具 体 的 な 取 組 状 況	・「花いっぱい運動」を夏、秋、冬の3回行った。 ・「五百石駅地下道清掃」を春と秋に各1回行った。 ・図書委員を中心に図書館へ入れてほしい本のリクエストを受けつけたり、新着図書のコーナーを設置し、図書便りで知らせたりした。 ・授業やHRでの使用を呼びかけた。特に国語科や生活文化科での利用が多かった。		
評 価	B	・今年度も新型コロナウイルスの影響から、思うように活動できないこともあり目標を達成できなかった。しかし、着実に活動に参加する生徒が増えてきており、「人とのかわりを大切にしたい」や「何事にもチャレンジしたい」という生徒の回答も多くあった。	C ・来館者数は目標の7割しか達成できなかった。また、本の貸し出し数は1人平均1.7冊であった。(昨年度は2.4冊) ・3年生を中心に放課後に勉強をしに来る来館者はいたが、本を借りに来る生徒は少なかった。
学 校 評 議 員 の 見 意	・ボランティアは「まず参加」「自分でもできること」から、「誰かの役に立てた」「喜んでもらえて嬉しかった」という実感の変容に繋がる工夫を今後も続けていってほしい。 ・読書がもたらす効果は大きいので、本の魅力を発信し読書に関心を持つ生徒が増えるよう今後も工夫してほしい。(図書室以外の場所でコーナーを設け、本を手にとってもらう機会を作ったり、生徒にアンケートを行い改善に繋げたりするなど) ・どちらも生徒を直接成長させる機会であるので数値が上がってほしい。単純にもっとボランティア活動や読書をたくさんした生徒を褒めてあげるのもいいのでは。		
次 年 度 へ 向 け て の 課 題	・生徒から「地域の方々と関わる活動をもっとしたい」という声が複数挙がっている。地元立山町との繋がりを深める活動を行う。 ・ボランティア活動の内容や告知方法を工夫する。 ・探究活動での情報収集に対応できるように、また、授業や検定、進路等で必要となる文献や書籍を充実させる。 ・図書委員による企画を工夫し、委員会としての活動を活性化させる。		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

令和4年度 雄山高等学校アクションプラン					－ 5 －	
重 点 項 目	(5 その他) 専門科目(家庭)の学習指導の充実					
重 点 課 題	専門科目の基礎的、基本的な知識と技術の習得を図るとともに、生活文化科での学びに対する達成感や充実感を高める。					
現 状	・中学校での家庭科の学習内容の縮減や、家庭や地域における生活体験の希薄化により、家庭に関する基礎・基本が定着しにくく、創意工夫の意欲が乏しい生徒が増えている。					
達 成 目 標	①家庭科技術検定における合格率・取得率				②卒業時における生活文化科に対する満足度 90%以上	
			合格率(受検者数 に対する割合)	取得率(在籍者数 に対する割合)		
	4・3級	食物調理 被服製作	100% 100%	100% 100%		
	2級	食物調理 被服製作(洋服) " (和服)	85% 80% 85%	85% 80% 35%		
	1級	食物調理 被服製作(洋服) " (和服)	85% 85% 85%	45% 23% 23%		
方 策	・家庭科技術検定合格に必要な学習指導、実技指導の徹底を図る。				・専門科目全般の学習指導および体験的総合的な学習の充実を図る。	
達 成 度	3級	食物調理 被服製作	100% 88%	100% 88%	・「生活文化科で学んで良かったか」というアンケートの項目において、「大変良かった」50%、「やや良かった」45%、「やや良くなかった」0%、「良くなかった」0%であった。(未回答2名)	
	2級	食物調理 被服製作(洋) " (和)	100% 85% 100%	100% 85% 37%		
	1級	食物調理 被服製作(洋) " (和)	81% 100% 80%	45% 26% 21%		
具 体 的 な 取 組 状 況	・4級、3級については、基本的な知識と技術の習得を目標とし、細やかに指導した。 ・2級、1級については、筆記試験および実技試験ともに、全体指導だけでなく放課後の個別指導に力を入れた。				・被服、食物、保育・福祉の科目を柱とし、各自の進路希望や興味関心に対応した教育課程を設定している。 ・専門性を高めるため、特別講師を招聘した授業の展開、検定取得に力を入れている。	
評 価	C	・筆記試験で不合格となった生徒が数名いた。1級にも積極的に取り組んだが準備不足のため不合格となった生徒が例年より多かった。三冠王を目指して9名が挑戦したが、取得生徒は5名であった。			A	・「大変良かった」「良かった」の合計が90%を超えた。コロナ禍で以前と同じようにはいかないものもあるが、来年度も引き続き、生徒たちの学びを充実させたい。
学 校 評 議 員 の 意 見	・地域や家庭における生活経験の希薄化と創意工夫の意識の乏しさが挙げられているが、学生全般に言えることではないかと感じる。高校での学習や体験はこの力も養っていると考えているが、小・中学校、地域や家庭との連携を図り啓蒙していく取り組みも大切であろう。 ・本校の特色である生活文化であり伝統と実績のある指導がきめ細やかに進められていると感じた。今後の成果にも大きな期待を寄せている。 ・生活文化科は雄山高校の一つの特色でもあるので、もっと広くアピールできたらと思う。					
次 年 度 へ 向 け て の 課 題	・生徒の実態を十分考慮し、全体指導と個別指導を効果的にを行い、目標を達成できるよう努めていきたい。				・在籍人数の違いがあっても、生活文化科における学びが充実したものになるよう、学習内容や方法、行事について再検討したい。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)